

総評

たくさんのお応募があった今年の国語部門では、作品の数だけでなく、種類も大幅に増えました。とくに自由研究では、人物や言葉の研究、観察や記録を日記形式にまとめたものなど、個性豊かな作品が多く見られました。この数年続いている「家族」というテーマに加えて、とにかく「自分の興味」に的を絞った作品が目立つたのも今年の特徴といえます。文章の構成力や資料のまとめ、分析のしかたなどには、目をみはるものもありました。その一方で、基本的な原稿用紙の使い方や、文章のつくり方に問題のある作品も少なからずありました。そのあたりに少し意識をもつて取り組んでみると、きっとより素晴らしい作品が生まれると思います。

文部科学大臣奨励賞

にじの向こうに

東京都 白百合学園小学校 3年 小出智子



一冊一冊のタイトルにも使われている、赤・だいだい・黄・緑・青・あい色・紫の7色の背景紙にも工夫が見られます

しょうわ十九年、さかえは十九才になつていました。さかえは、所ざわのとつたのき地にある実けん所ではたらくことになりました。

実けん所に着いたさかえは、自分の空想とあまりにもちがついておどろきました。そこには大きなきかいがい、立って行きました。さかえが今見たのは、とつたのきとして空へとび立つ人でした。とつたのきとはひ行きことてきの船へつこみ、自分がばくだんとなる人たちです。自分がばくだんなのだから、相手だけでなく自分も死んでしまうのです。

(あの人たちはどんな気持ちでとび立つのだろうか。)

と、さかえは思いました。

さかえは、とつたのきのひ行きがせいつばい羽をばげ、空の向こうへと遠ざかつて行くのを見た時、お父さんのことを思い出しました。そして、空をとぶひ行きが、おとうさんの時とんでいた赤とんぼに見えました。赤とんぼをつかまえるように、ひ行きをつかまえて、もどしたい気持ちでいつばいづいて、何かりきれない気持ちでいつばいでした。そんな日が毎日毎日過ぎていきました。

そしてしょうわ二十年八月十五日、正午に玉音放送がありました。ついにせんそうは終わったのです。ラジオから流れてきたのは天のうへい下の声でした。日本はせんそうに負けたのです。

さかえは心の中で、

(ああ、これでもう、せんそうで死ぬ人はいないんだ。ここからもうとつたのきとしてとび立つ人は、もういないんだ。)

と、ほっとした思いでいつばいになりました。

(赤とんぼを追いかけて「より抜粋」)

「身近なだれかの死」について、七人の人にインタビューをして、その話をもとにつづられた七つの物語です。ことばをよく選んでいて、展開もよく、それぞれに登場人物の心情がしっかりと描かれています。

社団法人 日本児童文芸家協会 会長賞

ミラルリク

神奈川県 横浜市立新吉田小学校 6年 多島史香

この物語は、伝説の花「ミラルリク」を求めて敵を次々と倒してゆく冒険ファンタジーです。架空の世界に現実の要素がたくみに取り込まれ、今の子どもたちの葛藤やコミュニケーションの方法を知ることができる。一〇三ページの長大な物語を書き続けた文章力とともに、新しい表現の可能性が感じられる作品でした。

日本児童ペンクラブ 会長賞

私の母

千葉県 千葉市立真砂第二小学校 6年 野口清香

母はとにかく明るい。いつも冗談を言っている。私を笑わせる。バレエの音楽が流れると必ず踊り出す。おまけに私を、男性ダンサーのつもりにして、くるくると私のまわりをまわり出す。ふざけたり、おどけたりする母を見て、ううちに、いつの間にか私は、自分の悩みごとでもどこかにふっ飛んで、忘れてしまふほどだ。(抜粋)

お母さんの生き生きとした様子が伝わってくる文章です。暖かい家庭の様子がうかがえます。

中央出版株式会社 社長賞

「むしたちのうんどうかい」 宮城県 仙台白百合学園小学校 1年 男澤 彩

この本をよんでいるうちに、わたしも虫さんといつしよにはなっているきぶんになりました。

ミイデラゴミシのおならがスタートのあいずです。わたしはたたくくくはやくにげようとして、ゴールもとおりこしてしまひうです。

さいごはつなひきです。うんとこしよ、どつしよ。わたしも、あせいつばいひつばいっているようなきもちになりました。(抜粋)

虫たちの喜々とした様子が、体験を交えて上手に描かれています。

中央出版株式会社 社長賞

トロルの研究 東京都 東京学芸大学教育学部附属小金井小学校 3年 秋山路子



森のトロルの絵です

本を読んだり人から話を聞いたりして、「トロル」をうまく分析しています。

全体から部分へと視点を移して研究を進めていくアイデアが、評価の対象となりました。

第20回特別賞

兄の上京 山形県 村山市立西郷中学校 3年 菊地勇気

「生懸命がんばってつからよ」と、たった一言しか書かれていないガキは、いかにも文章が苦手な兄らしい。でもそれを見た父は、

「いい言葉だだよ、勇気。」と僕に言った。初めはそんなふうに思ひしなかったが、父の言葉を聞いて、僕もなんだか父と同じことを思うようになった。

(抜粋)

お兄さんの上京を通して変化していく気持ちを見事に描写しています。

第20回特別賞

右手の思い出 愛知県 豊田市立五ヶ丘小学校 6年 石川みどり

夢なら覚めないで。私は一生けん命願った。夢でしかおじいちゃんに会えなくなつて半年。夢の中でつないだおじいちゃんの手は温かかった。その感じよくの残っている右手を、私はそと左手で包んだ。

「おじいちゃんの手、温かいね。」夢の中のうれしそう自分の声と、おじいちゃんの優しい笑顔が浮かんで消えた。

(抜粋)

おじいちゃんとの思い出が細やかに表現されています。

河北新報社賞

生きたいと思う今 (読書感想文) 宮城県 仙台白百合学園小学校 6年 宇佐美優希

優秀賞

- あの日 電車の中で (作文) 愛知県 西尾市立室場小学校 3年 浅井祐紀菜
- 「優しいまなざし」 (作文) 沖縄県 具志川市立立崎小学校 5年 池原勇貴
- ぼくと家族の夏休み (作文) 愛知県 岡崎市立緑丘小学校 5年 植田侑太郎
- 「再び丸い地球を」 (作文) 京都府 京田辺市立培英中学校 3年 奥村知恵

海外在住者賞

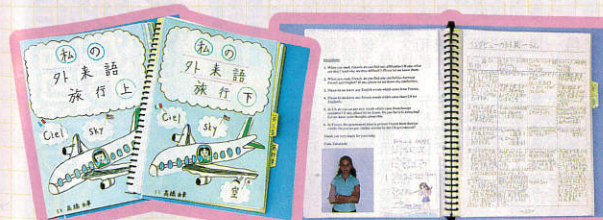
- 「野生のティッピー」を読んで (読書感想文) ドイツ ミュンヘン日本語補習授業校 中学3年 荒田 悠

子どもの文化・教育研究所 理事長賞

私の外来語旅行 東京都 白百合学園小学校 5年 高橋由華

上下巻合わせて二二ページにわたる、さまざまな角度から外来語について調査、研究を進めています。第章から第四章までの全四章で構成されており、第章は、英語とフランス語の比較をテーマに、外国人の知人にインタビューをしたり、インターネットで調べたりといった、高橋さんの行動力に圧倒される章です。

また、第三章では、外来語の使われ方ということで、新聞や雑誌、広告などで実際に使用されている外来語を拾い上げて分析するという地道な作業をしっかりとやり遂げています。知的に整理され、将来につながる研究と高く評価された作品です。



夏休みのニューヨーク滞在を生かして、5人のアメリカ人にインタビューをしています

子どもの文化・教育研究所 理事長賞

今までの人生で 一番感動した日 北海道 札幌市立八軒小学校 6年 角谷千飛路

「小樽の病院まで母さんに会いに、自転車で行こう。」と決意した。自宅を出て、時間、妹のペーに合せているので、まだ五キロも走っていない。妹は困を食いつくペダルをこいでいる。いつもならとくに泣き出しているはずなのに。そしてさらに時間、上り坂になつてきた。ここからは歩道がないので妹を前に行かせた。「兄ちゃん、もうこげないよ。」よし、ここからは押して行こう。「僕たちは自転車を下りて、何キロも押して歩いた。日はすっかり暮れて辺りは真っ暗。トラックの排気ガスが容赦なく吹き付けられ、息が苦しい。峠は寒く、手袋をはめているのに、指先の感覚がなくなるほど手がしびれる。それでも妹はひたすら自転車を押して歩く。出発して六時間が経過した。ようやく、ようやく小樽の街の明かりが見えてきた。うれしかつた。足は棒になり、からだは鉛のように重い。僕たちは倒れ込むように路肩で休息をとった。一口の水が渴ききつたのを通り過ぎていく。「兄ちゃん、お水つてこんなにおいしかったんだね。」妹はそう言うとお月様に手を合わせて「お母さんに会えますように。」とお祈りした。妹と肩寄せ合つて見た小樽の夜景は涙で霞んでいたけれど、僕は生忘れしない。(抜粋)

苦勞する二人の描写が特に強く心に残る作品です。全体の構成のよさが読む人を引き込みます。